

平成31年度 かつらぎ町行財政対策協議会 評価対象事業

●平成30年度決算主要施策等

事業番号	事業名	担当課
1	【地】高野山麓ツーリズムビューロー（DMO）推進事業	産業観光課
2	コミュニティバス運行事業	総務課

【地】… 「地方創生推進交付金事業」地方版総合戦略に関する、自主的・主体的で先駆的な地域活性化事業の支援を目的とした、国が交付金を交付する事業

事業番号	事業名	町自主事業
1	高野山麓ツーリズムビューロー(DMO)推進事業	本年度決算 1,999,985円
(款) 7. 商工費	(項) 2. 観光事業振興費	(目) 1. 観光事業振興費
産業観光課 商工観光係	決算書 159ページ	前年度決算 999,000円
		(増減) 1,000,985円
第2章 地域の特性を生かした活力あるまちづくり	第1節 活力を生むまちづくり	第3 観光・サービス業の育成

内容	<p>橋本市を中心に立ち上げた「高野山麓ツーリズムビューロー」は、地域にある観光資源を整理し、商品として販売することにより観光地域づくりを推進するものです。また、広域的な観点から広い地域の中で周遊できるような商品開発も行います。</p> <p>[事業期間] 平成29年度 ~</p>
目的	<p>かつらぎ町はもとより、橋本・高野山を含む観光地を訪れた方を中心に、アンケート調査を行いターゲットを絞り、効果的なPR活動・商品開発を行うためのニーズ把握を行うとともに、かつらぎ町では行っていなかった場所や、イベントにおいてPRを行います。</p>
実績	<p>活動</p> <p>観光客動態ニーズ調査では、かつらぎ町を訪れた方がどのようなものに関心があるか、また目的は何であるかなどを中心に調査を行いました。観光プロモーションでは関西国際空港で2回、大阪なんばで1回のイベントを行いました。関西国際空港では訪日外国人に柿とみかんを配布し、伊都・橋本地域のPRを行いました。また大阪なんばでも、地下商店街のイベントに参加し柿のPRを行いました。また、国内に在住の外国人向け雑誌に、フルーツ狩り情報の掲載を行いました。</p>
	<p>成果</p> <p>ニーズ調査については今後数年調査を続けながらニーズの動向を見守り、かつ必要ある調査項目を追加していきます。プロモーションについては、単年で成果を出すのは難しいが、大阪の地下商店街にある店舗と冬に期間限定ではあるがフルーツコラボ商品を作成することができました。</p>
課題	<p>近年の観光者は多くの媒体から情報収集することが多く、町としてできることとしてSNSでの発信やイベントをPR機会として活動を行ってきました。しかし、効果の大きいと思われるTVや雑誌などは係る費用も大きく1町では財政的な負担も大きく、また、旅行者の移動距離が延びかつらぎ町だけで足をとどめさせておくのは困難です。今後はより広域でのPRやモデルルートなどの作成により力を入れていく必要があります。</p>

経費	観光プロモーション業務委託料	999,994円
	観光客動態・ニーズ調査委託料	899,991円
	高野山麓ツーリズムビューロー会費	100,000円
	(計)	1,999,985円
財源	地方創生推進交付金(国補助、1,999,985円×1/2)	999,992円
	一般財源(うち、ふるさとかつらぎ基金繰入金 500,000円)	999,993円

関連成果指標	指標名		単位	28年度【実績】	29年度【実績】	30年度（目標）	30年度【実績】
	観光客入込客数		人	1,058,090	1,300,748	-	1,416,915
	かつらぎ町内宿泊者数		人	41,682	43,159	-	38,252
担当課自己評価	評価項目	自己評価	評価根拠				
	①必要性	大いにある	交通網の整備により、かつらぎ町の観光人口は増加傾向にあるが、単なる通過点とならないよう広域的な情報発信、観光ルートの整備などを行う必要がある。				
	②有効性	大いにある	世界遺産やフルーツ狩りなど町内の観光資源をより魅力的な商品としてパッケージングし、販売することにより町内での滞在時間の延長を図る。				
	③効率性	大いにある	かつらぎ町の魅力を伝えるためには、多くの費用と人員が必要となるだけでなくターゲットの選定や効果的な方法を考えていく必要がある。				

< 事業説明、質疑応答メモ >

事業番号	事業名	町自主事業
2	コミュニティバス運行事業	本年度決算 50,672,798円
(款) 2. 総務費	(項) 1. 総務管理費 (目) 18. コミュニティバス運行費	前年度決算 31,072,382円
総務課 総務係		(増 減) 19,600,416円
決算書 97ページ		
第1章 豊かな自然と歴史・文化のまちづくり	第3節 快適で潤いのあるまちづくり	第1 生活基盤の整備

内容	<p>町内の公共交通空白地帯を5コース、バス4台で年間361日運行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四郷コース (往路3便、復路3便) ・新城花園コース (往路7便、復路7便) ・天野コース (往路6便、復路6便) ・河南コース (往路3便、復路3便) ・河北通院コース (往路4便、復路4便) <p>計 1日 46便</p> <p>[事業期間] 平成14年度 ~</p>
	<p>公共交通空白地域の解消及び交通手段をもたない高齢者等の日常生活の交通手段として運行します。</p> <p>天野コースについては、丹生都比売神社への観光客の交通手段としても運行します。</p>
実績	<p>活動</p> <p>コミュニティバス運営委員会を開催し、要望や地域の状況から運行経路等を協議し、現行経路で運行することとなりました。</p> <p>経年劣化したコミュニティバス車両2台の内、1台を新たに購入し更新しました。</p>
	<p>成果</p> <p>年間総乗車人数 : (H29) 21,005人/年 → (H30) 20,086人/年</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年々利用客が減少傾向にあり、利用促進に向けた取組が必要です。 ・コミュニティバスについては、利用実績を分析し、運行コースやダイヤ等の見直しを行い効率的な運行に改正し、併せてデマンド交通や福祉有償運送など様々な運行形態について研究する必要があります。

経費	コミュニティバス運営委員会委員報償費	79,800円
	コミュニティバス運行補助金	31,387,758円
	コミュニティバス車両購入費	19,040,400円
	その他事務費	164,840円
	(計)	50,672,798円
財源	過疎対策事業債(借入金、返済額のうち町負担は30%)	18,800,000円
	一般財源(うち、ふるさとかつらぎ基金繰入金、400,000円) (運行補助金の80%が特別交付税の対象)	31,872,798円

関連成果指標	指標名		単位	28年度【実績】	29年度【実績】	30年度（目標）	30年度【実績】
	年間総乗車人数		人	21,835	21,005	24,000	20,086
担当課自己評価	評価項目	自己評価	評価根拠				
	①必要性	大いにある	公共交通空白地域の解消と、高齢者など交通弱者の日常生活のための交通手段として重要な役割を果たしている。				
	②有効性	概ねある	利用者数は、年々減少傾向にあるが買い物や通院といった日常生活のための交通手段としての役割を果たしている。また、天野コースや新城花園コースについては、観光利用もあり一定の効果は有るものとする。				
	③効率性	あまりない	利用の少ないコースや便を見直し、可能な限り公共交通空白地域を解消するため、デマンド方式を導入するなどコミュニティバス運行の効率化を図るとともに、利用者ニーズに合ったルートやダイヤ編成とする必要がある。				

< 事業説明、質疑応答メモ >